

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 5 月 29 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03541

研究課題名(和文) 環大西洋保守主義思想の形成と展開：社会改革思想との競合の思想史的検討

研究課題名(英文) Formation and Development of Transatlantic Conservative Thought: An Intellectual History of Competition with Radical Thoughts

研究代表者

井上 弘貴 (Inoue, Hirotaka)

神戸大学・国際文化学研究所・准教授

研究者番号：80366971

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アメリカにおける保守主義思想が、(1) イギリスの思想的影響のもとで形成され、(2) 社会改革思想にたいする批判ないしは社会改革思想からの転向によって展開を遂げていったことを思想史的観点から明らかにすることを目指すものであった。

(1) については、アメリカ独立という建国の端緒を思想的出来事として意味づける際に、イギリスとの連続性を重視するか、それとも断絶を強調するかが今日の保守主義思想の潮流の分岐にとって重要な役割を果たしていることが確認された。(2) についてはバーナムの経営者階級、ないしはミロヴァン・ジラスのニュークラスの概念的受容が、一貫して影響を与え続けていることが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、リベラリズムと比較して学術的関心の低いアメリカの保守主義思想の形成と展開を環大西洋的な視点から思想史的に考察することをつうじて、2016年の大統領選挙を契機として台頭してきた保守主義思想の諸潮流、具体的には西海岸シュトラウス学派、ナショナル・コンサーヴァティズム、ポスト・リベラリズムの思想的な端緒を明らかにした。当事者たちによって不可逆的であるとみなされているアメリカ保守主義の転換がもたらした新しいこれらの思想は、ヨーロッパにおける右派ポピュリズムの潮流とも関係が深いことが明らかになっており、本研究は欧米の政治社会の動向を把握するうえで思想史の観点から貢献をなすものであると言える。

研究成果の概要(英文)：This research focused on clarifying from the perspective of the history of ideas that conservative ideas in the United States were derived from the historical background of British political thoughts, and that they were developed through the critical interaction with radical ideas including Trotskyism and Marxism. The research found that while some conservatives, Willmoore Kendall and M. E. Bradford argued the theoretical continuity between the Declaration of Independence and British political tradition, others of which Harry V. Jaffa was a representative vehemently claimed the Declaration of Independence signaled a radical beginning for America. The research also found that conservative ideas in the United States have been influenced by both the concept of the managerial class which was elaborated by James Burnham and that of the new class that Milovan Geras introduced to the western intellectuals in the 1950s.

研究分野：政治学

キーワード：保守主義 アメリカ政治思想史 イギリス政治思想史 環大西洋 キリスト教 ナショナリズム シュトラウス学派 右派ポピュリズム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

アメリカの保守主義思想にかんする代表的な先行研究としては、佐々木毅『現代アメリカの保守主義』(岩波書店、1984年)が先駆的なものとして挙げられる。その後、アメリカにおけるクリントン政権の誕生などによって、アメリカの保守主義思想は一時的に忘れられたトピックとなったが、G・W・ブッシュ政権の登場とそのもとのいわゆる「ネオコン」の影響力増大によって、ふたたび関心が高まった。そうしたなかでたとえば、中岡望『アメリカ保守革命』(中央公論新社、2004年)、会田弘継『追跡・アメリカの思想家たち』(新潮社、2008年)、久保文明、東京財団・現代アメリカ研究会編『ティーパーティー運動の研究 アメリカ保守主義の変容』(エヌティティ出版、2012年)、中山俊宏『アメリカン・イデオロギー 保守主義運動と政治的分断』(勁草書房、2013年)を代表とする研究成果が、これまでに発表されてきた。

2000年代に出版された文献は、当時のブッシュ政権下で外交政策に大きな影響をおよぼしたネオコン第二世代への関心を踏まえ、アメリカの保守主義思想にたいするジャーナリスティックな関心から対象にアプローチしたものが多い。2010年代に出版された文献は、アメリカの実際の政治過程における保守主義について学術的に考察を加えたものである。ただし、これらは主に運動としての保守主義を扱ったものであって、思想としてのアメリカ保守主義を必ずしも中心的に扱ったものではなかった。それゆえに、保守主義の知識人たちの一次文献の精査を踏まえることで、その具体的な解明を目指す作業は、残された課題となっていた。

そこで本研究は、運動を先導するものでありつつも、それ自体が自立した領域である思想潮流の形成と展開に焦点を当てることで、とりわけ日本の学界において未解明なままとなっているアメリカの保守主義思想の解明に取り組むことを目指した。

2. 研究の目的

とりわけ本研究は、アメリカにおける保守主義思想が、イギリスの思想的影響のもとで形成され、かつ、社会改革思想にたいする批判ないしは社会改革思想からの転向によって展開を遂げていったことを環大西洋的な視点から明らかにすることを目的として設定した。

建国期のニューイングランドにおけるアメリカ政治思想の形成は、J・G・A・ポーコック著、犬塚元監訳『島々の発見 「新しいブリテン史」と政治思想』(名古屋大学出版会、2013年)で明らかにされているとおり、イギリスにおける立憲主義や共和主義の思想展開と連動したものである。このような英米の環大西洋的な影響関係は、その後も持続し、とくにアメリカの保守主義思想の形成においても不可欠な要素となったことが推測された。戦後のアメリカ保守主義思想の大成者であるラッセル・カーク(1918-1994)が最晩年の1993年に *America's British Culture* を刊行し、アメリカ保守主義思想におけるアングロ・アメリカンの要素を強調したことは本研究にとって重要な手がかりであった。

アーヴィング・クリストルやノーマン・ポドレッツといったネオコンの知識人たちが、若き日にマルクス主義に傾倒していたことは知られているが、かれらに限らず、20世紀におけるアメリカ保守主義思想の展開は、革新主義からニューディールへと至るアメリカの社会改革にたいする批判や反発、あるいはラディカリズムやマルクス主義からの個人的転向のなかで生じてきた。1955年に創刊された『ナショナル・レビュー』誌の創刊時の主要メンバーであるウィルモア・ケンドール、フランク・S・マイヤー、ジェイムズ・バーナム、あるいはまた、かれらと密接な関係を保ったウィティカー・チェンバースもまた、左派からの転向知識人である。日本では従来、こうした個々の知識人たちの個別研究は、ほとんど未着手の状態であった。本研究は、そのような転向知識人についての研究を蓄積し集約するなかで、社会改革思想とアメリカ保守主義思想の展開との連環を実証的に明らかにすることをもうひとつの課題とした。

3. 研究の方法

本研究は、インテレクチュアル・ヒストリーから多くの影響を受けつつ、思想史研究を主たる方法として採用した。そのうえで本研究は、アメリカ政治思想史の研究者から成るアメリカ研究のメンバーにくわえて、イギリス文学とイギリス政治思想史の研究者から成るイギリス研究のメンバーを加えることで、アメリカ研究とイギリス研究、ならびに政治思想史と文学という二重の学際性を加味した。この二重の学際性から、既存の研究では明らかにすることができてこなかったアメリカ保守主義思想の多様な起源と長期のスパンでの思想家たちの影響ならびに系譜関係を明らかにすることができるように努めた。

4. 研究成果

研究目的の については、アメリカ独立という建国の端緒を思想的出来事として意味づける際、イギリスとの連続性を重視するか、それとも非連続性を強調するかが、アメリカ保守主義思想の潮流の分岐にとって重要な役割を果たしていたことが確認された。この点をめぐってはとくに、アメリカ独立宣言をイギリスの政治的伝統との連続性において歴史的に位置づけるか、それともイギリスとの断絶、ないしはアメリカの新たな創設という非連続性において評価するかという、ふたつの潮流の対立として理解できることが確認された。

前者の連続性を重視する代表的論者が、バックリー・ジュニアの師である前述のケンドールであり、また、ペイリオコンの代表的知識人と言える E・ブラッドフォードである。それにたいして、後者の非連続性を強調するのが、レオ・シュトラウスの高弟のひとりであり、西海岸シ

ユトラス学派の創設者であるハリー・V・ジャファである【引用文献】。なお、アメリカ独立宣言とイギリスの政治的伝統との連続性に立脚して、ケンドールとブラッドフォードはエイブラハム・リンカンを批判的に解釈し、ジャファは断絶を強調したうえで、リンカンを高く評価している。保守主義思想の潮流の分岐は、リンカン評価をめぐるも生じていることが本研究では確認できた。

研究目的の については、バーナムが1940年代に経営者革命のなかで論じた経営者階級、ないしはミロヴァン・ジラスによって1950年代に当時の西側知識人にもたらされたニュークラスの概念的受容が、現在に至るまでアメリカの保守主義思想に一貫して影響を与え続けていることが確認された。ジラスは当初、東側共産主義体制のなかに生まれた特権的な官僚層をニュークラスとして定義したが、この概念は西側の知識人たちによって、戦後に新たな階層として観察されるようになった専門職の人びとを指す概念として転換された。この概念を積極的に社会分析に持ち込んだのは、ネオコン第一世代の知識人たちであり、かれらはニュークラスが、従来のブルジョア文化を拒否する「敵対文化」を掲げて、マイノリティを率いて社会の新しい支配層になろうとしていると警鐘を鳴らした【引用文献】。

ネオコン第一世代は、支配的な階級としてのニュークラスを限定的に捉えたがゆえに、ニューディール・ベラリズムを肯定的に評価する一方で、1960年代のニューポリティクス・リベラリズムを批判するという立場をとった。ニューディールのなかに経営者階級の支配を読みとったがゆえに、ニューディールを批判したニューライトと、そうしたネオコン第一世代との差異は、両者が前提としている階級論の違いに求めることができるという知見を本研究は得た。ただし、ネオコン第一世代がニューライトに合流し、さらには1980年代にレーガン大統領が誕生し、戦後保守の立場を汲んだ政権が誕生することによって、ニューライトのそもそもの批判的視座は失われる傾向にあったということが併せて指摘できた。

それにたいして、バーナムの経営者階級論の批判的先鋭さを継承したのは、サミュエル・フランシスに代表されるペイリオコンの論者たちであった。たとえばフランシスは、右派の立場でありながらもイタリアのマルクス主義者であるアントニオ・グラムシのヘゲモニー論を受容し、そのうえでミドル・アメリカン・ラディカルズ(Middle American Radicals, MARS)を成す白人の人種的階級的ヘゲモニーの確立を主張した【引用文献】。人種を加味した階級対立を鮮明にするペイリオコンの思想には、今日の右派ポピュリズムの原型が見出される。

今日の右派ポピュリストであり、トランプ大統領のアドバイザーを務めたスティーヴ・バノンが、世界経済フォーラムの年次総会であるダボス会議からその名をとり、グローバルなエリートを「ダボス階級(Davos class)」と名づけているように、アメリカの右派の側で独自の階級概念の使用が継続的に確認できる。本研究は、このような階級概念の使用が戦後アメリカの保守主義思想のなかで、社会改革思想との競合をつうじて形成されてきた過程を、事例をもとに明らかにした。

<引用文献>

井上弘貴「秘教としてのロック、顕教としてのロック シュトラウスのロック読解と戦後アメリカの保守主義」、石崎嘉彦、厚見恵一郎編『レオ・シュトラウスの政治哲学 自然権と歴史』を読み解く』ミネルヴァ書房、2019、203-218

井上弘貴「リベラリズムに背いて ネオコン第一世代による保守主義の模索」『政治思想研究』第18号、2018、41-70

井上弘貴「ドナルド・トランプに先駆けた男 サミュエル・T・フランシスのペイリオコンサーヴァティズム」『アメリカ研究』第52号、2018、63-85

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 野谷啓二	4. 巻 51
2. 論文標題 デイヴィッド・ジョーンズの詩学 神学的モダニズム序説	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際文化学研究	6. 最初と最後の頁 59-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 池田直樹	4. 巻 40
2. 論文標題 アメリカ社会と正当化の危機 1970年代におけるP・L・バーガー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会学史研究	6. 最初と最後の頁 113-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 森達也	4. 巻 25
2. 論文標題 アイザイア・バーリンと政治的リアリズムの潮流	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 政治哲学	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.32254/jpp.25.0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 石川敬史	4. 巻 5
2. 論文標題 収斂としてのアメリカ革命	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 nyx（ニクス）	6. 最初と最後の頁 248-261
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上弘貴	4. 巻 18
2. 論文標題 リベラリズムに背いて ネオコン第一世代による保守主義の模索	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 政治思想研究	6. 最初と最後の頁 41-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井上 弘貴	4. 巻 124
2. 論文標題 トランプをめぐるアメリカ保守主義の現在 旗幟を鮮明にする西海岸シュトラウス学派	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 法学新報	6. 最初と最後の頁 33-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上 弘貴	4. 巻 52
2. 論文標題 ドナルド・トランプに先駆けた男 サミュエル・T・フランシスのペイリオ・コンサーヴァティズム	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アメリカ研究	6. 最初と最後の頁 63-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 森達也
2. 発表標題 アイザア・パーリンとプラグマティズム 価値多元論形成の一局面
3. 学会等名 日本イギリス哲学会第43回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上弘貴
2. 発表標題 エイブラハム・リンカンをめぐるアメリカ保守主義内の抗争　　ハリー・V・ジャファとその競合者たち
3. 学会等名 第38回政治哲学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上 弘貴
2. 発表標題 戦後アメリカ社会の変容と新保守主義　　ニュー・クラスをめぐる議論を中心に
3. 学会等名 政治思想学会第24回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井上 弘貴
2. 発表標題 トランプ登場後の保守主義思想の変容について　　西海岸シュトラウス学派の動向を中心に
3. 学会等名 アメリカ政治研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川 敬史
2. 発表標題 イギリス領北アメリカ植民地の指導者層にとっての常識哲学
3. 学会等名 日本イギリス哲学会第42回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KIYOKAWA Sachie
2. 発表標題 Whose Lady is she? Representations of Guinevere and Other Arthurian Characters in Recent Films
3. 学会等名 Japan-Asia-Europe Comparative Symposium on Migration, Multiculturalization and Welfare (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tatsuya Mori
2. 発表標題 Idealism and Value Pluralism in Berlin's Two Concepts of Liberty
3. 学会等名 Anglo-Japanese International Workshop on British Idealism (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秋田 真吾
2. 発表標題 革新主義期アメリカにおけるソーシャル・セツルメント運動と国民統合 ジョン・コリアを題材に
3. 学会等名 関西アメリカ史研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 野谷啓二	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開文社	5. 総ページ数 232
3. 書名 オックスフォード運動と英文学	

1. 著者名 森達也	4. 発行年 2018年
2. 出版社 早稲田大学出版部	5. 総ページ数 328
3. 書名 思想の政治学 アイザイア・バーリン研究	

1. 著者名 井上 弘貴、伊藤 邦武、沖永 宜司、加賀 裕郎、宮崎 宏志、小口 裕史、新 茂之、早川 操、松下 晴彦、柳沼 亮太、江川 晃、浜野 研三、笠松 幸一、苫野 一徳、藤井 千春、高頭 直樹	4. 発行年 2017年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 270
3. 書名 プラグマティズムを学ぶ人のために	

1. 著者名 植朗子、南郷晃子、清川祥恵	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 「神話」を近現代に問う	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	片山 文雄 (Katayama Fumio) (40364400)	東北工業大学・教職課程センター・准教授 (31303)	
研究分担者	石川 敬史 (Ishikawa Takafumi) (40374178)	帝京大学・文学部・教授 (32643)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	清川 祥恵 (Kiyokawa Sachie) (50709871)	大阪工業大学・工学部・講師 (34406)	
研究分担者	野谷 啓二 (Notani Keiji) (80164698)	神戸大学・国際文化科学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	小野田 喜美雄 (Onoda Kimio) (80754499)	東北大学・法学研究科・特任フェロー (11301)	
研究分担者	森 達也 (Mori Tatsuya) (40588513)	神戸学院大学・法学部・准教授 (34509)	
研究協力者	相川 裕亮 (Aikawa Yusuke)	慶應義塾大学・法学研究科・助教 (32612)	
研究協力者	秋田 真吾 (Akita Shingo)	神戸大学・国際文化科学研究科・協力研究員 (14501)	
研究協力者	池田 直樹 (Ikeda Naoki)	神戸大学・国際文化科学研究科・博士後期課程 (14501)	